

米朝会談 失敗なら破壊的結果

ペリー元国防長官 東京で講演

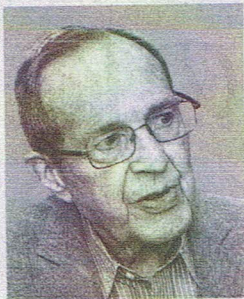
米クリントン政権下で国防長官などを務め、北朝鮮との非核化交渉に携わったウィリアム・ペリー氏(90)が11日、東京都内で講演し、米朝首脳会談の見通しや課題を語った。(国際部 比嘉清太)



北朝鮮の非核化に米政権が関わった過去3回の交渉は全て失敗した。私が学んだ四つの教訓は、北朝鮮は①体制維持のために核開発をしている

②独裁国家だが、狂ってはいない③合意しても、合意に拘束されるとは考えていない④経済制裁を回避するために自国の安全保障、つまり核開発をあきらめることはない——というものだ。

核弾頭の削減や解体の検証は非常に難しい。米国は旧ソ連とも核兵器削減の条約を結んだが、核弾頭の数の評価ができたことはない。配備されているミサイルの数か



1927年、米ペンシルベニア州生まれ。クリントン政権時の94、97年に国防長官を務め、核軍縮を推進。99年には米国の北朝鮮政策調整官として平壤を訪問した。

非核化検証 希望持てない

ら、核弾頭の数や推測しているだけだ。

米国は過去の失敗を頭に入れておかなければ、北朝鮮と実りのある交渉はできない。交渉から達成できるものにも多大な期待をしてはならない。

北朝鮮が、たとえ非核化に合意したとしても、合意内容がどのように守られるのか。非核化の検証についても、あまり希望が持てない。北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長は「必要な核・ミサイル開発はもう終えたから、交渉のテーブルについてもいい」と思っているのだろう。

米国は、自国を射程内に収めるICBM(大陸間弾道ミサイル)ができたとなると大騒ぎするが、東京やソウルを射程に収める中距離ミサイルがあったとしても、それほど騒がない。一方、核実験の禁

止は米国だけでなく各国にとって重要だ。北朝鮮が核兵器で米国や日本を攻撃する能力を有するとしても、意図して攻撃してくるとは私は考えない。だが、意図がなくても戦争が起きる状況になることを心配している。

北朝鮮は、非核化によって得られる経済上の利点以上に、自国の安全や米国との国交正常化に関心を持っていない(休戦協定しか結ばれていない朝鮮戦争の)終戦を実現し、大使館を設置するということだ。経済上の利点も重要だが、それが北朝鮮を対話に突き動かす動機ではない。米朝首脳会談の開催は確実ではないと思う。(トランプ政権の幹部にも首脳会談に反対して)サポータージュシウとする人がいる。成功するかしないか、五分五分だと思つても成功しなければ、そこから急に振りが軍事的な方に振れてしまう可能性がある。そうなれば、非常に破壊的な結果を招く。